

ハウスミカン樹の年間肥料要素吸収量

原田豊・井上宏*

高松市中山町において、9 年間にわたってハウス栽培を続けたカラタチ台ウンシュウミカン樹(興津早生,17 年生)を掘上げ解体調査し、その新成部各器官の分析をおこなって、肥料要素含有率を求め、年間肥料要求吸収量を算出した。そして既報(1)の坂出市のハウスミカン園における季節的肥料要素吸収量および、新梢と果実による年間肥料要素吸収量の調査結果も含めて、比較考察した。

1. 解体調査した新成部中の肥料要素含有率をみると、ハウスミカン、露地ミカンともに、N は 1 年生葉と細根で、P は 1 年生枝葉と細根で、K は細根、果肉、1 年生葉で Ca および Mg は葉、枝などの栄養器官で高かった。

ハウスミカン樹と露地ミカン樹を比較すると、Ca 含有率が前者で低い傾向があったほかは大きな差はみられなかった。

2. 年間肥料要素吸収量は、解体調査の結果では、ハウスミカン樹は露地ミカン樹の N で 110%、 P_2O_5 で 115%、 K_2O で 112%であり、季節的变化の調査では、N で 128%、 P_2O_5 で 135%、 K_2O で 162%であった。いずれもハウスミカンは露地ミカンより吸収量が多かった。

3. 果実 1t 生産のための肥料要素吸収量をみると、解体調査、季節的变化調査ともに、ハウスミカン樹では露地ミカン樹の、N で 62%、 P_2O_5 で 64~65%、 K_2O で 63~79%、CaO で 40~48%、MgO で 50~70%であり、ハウスミカン樹は露地ミカン樹に比較して、果実生産について肥料の効率が高かった。

4. 早朝加温のハウスミカンでは、果実収穫後の 8 月~9 月に多数の夏枝が発生、伸長し、N を中心として、相当量の肥料要素が吸収された。